

第2回宝塚市総合計画審議会

日時：令和元年(2019年)7月19日(金) 18:30～20:45

場所：宝塚市役所大会議室

1 開 会

出席委員 ※敬称略、順不同

濱田(恵)委員、濱田(格)委員、久委員、藤井(達)委員、藤井(博)委員、藤本委員、
飯室委員、加藤委員、温井委員、山村委員、今住委員、喜多河委員、久保委員、
古泉委員、福住委員、松原委員、見市委員、矢野委員、山本委員、井上委員、
龍見委員、西中委員、橋之爪委員

欠席委員の確認： 1名欠席（糸田委員）

傍聴希望者の確認：14名

事務局 それでは定刻となりましたので、久会長、よろしくお願い致します。

会長 それでは列席者がまいりましたので、第2回宝塚市総合計画審議会を開催させていただきます。

本日の委員の出席につきまして、事務局からご報告いただきたいと思えます。よろしくお願い致します。

事務局 (出席説明)

会長 ありがとうございます。

2 前回の開催概要

会長 続きまして、前回の開催概要につきまして、事務局から説明いただければと思います。よろしくお願い致します。

事務局 (前回開催概要・配布資料の説明)

会長 よろしいですか。

3 議 事

議題1 市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書について

会長 続きまして、議題の方に入らせていただきたいと思います。今日は、どちらかという、前半部分はさまざまな情報を共有して、今後の計画策定に活かしたいと思っています。まずその1つとしまして、市民ワークショップ「タ

事務局
委員

カラ ミライ ラボ」から提言書をいただいておりますので、それにつきまして事務局の方からご報告いただければと思います。よろしく申し上げます。

(市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」の目的等について説明)

初めに、この提言書を作成した経緯や、込められた思いについて説明させていただきます。

この第6次宝塚市総合計画策定に向けたワークショップ「タカラ ミライ ラボ」、略して「タカラボ」は、第6次総合計画の策定にあたって、宝塚市が「めざすまちの姿」を市民同士で意見交換をしながら、まとめていくために設置されました。

ワークショップには、市内在住の市民だけではなくて、在勤の市民や在学の市民など、10代から80代までの市民と若手市職員の合計52名が参加をしまして、今年2月から6月まで、延べ9回の全体ワークショップと、この提言書等にまとめていくための作業班を5回行いまして、それぞれが胸に抱いている宝塚市のまちの姿や、その実現のために私たちができることについて意見を出し合って、本提言書を取りまとめました。

「タカラ ミライ ラボ」という名前は、ワークショップをより身近に感じられるようにグループごとに分かれて、どんな名前がいいかなと言いながら案を出し合って、参加者で投票して決めました。宝塚の未来を考えるラボということで、「タカラ ミライ ラボ」をロゴのように配置すると、真ん中に「ラララ」と出てくるような感じで、みんな考えながら決めさせていただきました。

このようにワークショップは市民の想いを最優先して行われました。また、座長を置かずに全員でゼロからつくり上げるというやり方については、すごく難しい部分もあったのですが、参加者が主体となって、この提言書をつくり上げられたということは、とても意義深いものだったのではないかなと思っています。

委員

続きまして、ここでお伝えしたいことが3つあります。

1つ目にお伝えしたいことは、提言書の内容についてです。提言内容は、何か統計や白書など精緻なデータに基づく内容ではありません。参加したメンバーのアイデアの総意をまとめ上げた内容になっています。ワークショップでは、多様な世代・立場の市民が集まり、宝塚市のよりよい未来を提言書に描こうと、それぞれ自由闊達に意見を交換し合い、そこで出たアイデアを提言内容に反映させているかたちになっています。

ですので、私たちの宝塚市のよりよい未来を描いた提言内容を、ぜひ第6次総合計画策定の際に生かしていただきたいということを2番目にお伝えしておきます。

3つ目が、「タカラボ」のミッションである提言書作成は、7月17日をもって終えることになりましたが、私たちにとっては、むしろここからがスタートと考えております。ワークショップを機にさまざまな人が出会い、多様な価値観を認め合えた私たちだからこそ、私たちが率先して行動を起こし、発信して、よりよい宝塚市の未来のために、多くの宝塚市民がまちづくりに関心を持つきっかけをつくっていただければと考えております。

提言書の具体的な内容に入る前に、この場をお借り致しまして、これまで「タカラボ」のアドバイザーとして関わっていただきました会長と、そして資料作成、情報発信など、事務局として関わっていただきました政策推進課の皆さまに、ワークショップメンバーを代表してあらためて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

委員

1ページの方にあります具体的な提言書の内容についてご説明させていただきます。

私たち「タカラ ミライ ラボ」では、テーマごとに6つの「めざすまちの姿」と、それらを実現するための「まちづくりの視点」をまとめました。「まちづくりの視点」は、6つの「めざすまちの姿」を踏まえ、それらが実現するための土台となるような視点として考えました。

1ページに記しているような、「わたしの舞台は たからづか」の周りにある6つの視点が、私たちの考えた「めざすまちの姿」です。この示した方向に向かい、市民・行政ともにまちづくりを進めれば、よりよい宝塚市を築けるのではないかと考えています。

「まちづくりの視点」について次にご説明させていただきます。ページは移りまして、2ページの方に進ませていただきます。

私たちは、「わたしの舞台は たからづか」というものを「まちづくりの視点」としてまとめました。将来、市民が幸せに安心して暮らせる未来を築くためには、市民が主体となり、大人から子どもまでまちづくりに関わる必要がありますと考えました。

まちには、市民が主体になれるさまざまな舞台があります。例えば世代間で交流する、イベントを行う・参加する、まちづくり協議会、自治会、子ども会に参加するなど、大小さまざまな舞台があります。私たち一人ひとりが舞台に立ち活動をすることで、まちを発展させることができると考え、「わたしの舞台は たからづか」という言葉にワークショップの思いを込めました。

続きまして、6つの「めざすまちの姿」についてご説明させていただきます。次ページ以降に6つの「めざすまちの姿」について細かく説明させていただいているのですが、ワークショップでは6つのテーマに分かれて議論を交わしました。

そのテーマというのは、大枠で何々系と設定した上で、さまざまな意見が出るように致しました。テーマとしては、子育て・教育系、観光・働く・農業系、自然・環境系、文化・歴史系、防災・安全・住環境・交通系、健康・福祉系。そのテーマごとに私たちは「めざすまちの姿」を考えました。

この「めざすまちの姿」を考えるにあたって、まず私たちは、宝塚のいいところ、残念なところを出し合いました。この残念なところというのは、宝塚の課題、そしていま足りないところではないかと思っております。

では、実際に「めざすまちの姿」がどのように実現したかを確認するための指標としまして、2番に確認する方法を示させていただいております。また、その「めざすまちの姿」について、私（私達）がいまからできることは何かということもまとめさせていただきました。

これから「めざすまちの姿」について、テーマごとにご説明させていただきます。

委員

では、1班の子育て・教育系の発表をさせていただきます。

1班の「めざすまちの姿」のキャッチフレーズを「あそびがそだつ こどもがつくる」としました。宝塚市の子育て環境には、いいところもあるのですが、残念なところもあるという意見を受けて、どうしたら社会的に子育てができるまちになるかなということを中心に考えました。

「めざすまちの姿」、この「あそびがそだつ」という表現の、「あそび」という言葉には、子どもが遊ぶ「Play」と、余白や余裕といった意味の「あそび」の、2つの意味が込められています。

「こどもがつくる」というのは、「わたしの舞台はたからづか」の主語である「わたし」には子どもも含まれていて、宝塚の子どもたちも市民の一人であると大人も子どももちゃんと自覚をして、まちづくりに積極的になればいいなという思いで、このように付けました。

どのようになれば「めざすまちの姿」が実現したと思えるかなということで、2番のところにまとめています。1つ目は、遊びの場や子育て環境が充実しているということです。あと、日常的に子ども同士や世代を超えた交流ができるということ。次世代を担う子どもたちが地域や学校の活動の中で、地域、社会への関わり方を学んで、まちづくりに参加しているということが必要なのではないかと思います。

そのために私たち市民も子どもの存在を認めて、子どもの目線に立って考え、大人も子どもも周りを認め合って、他人への寛容さを醸成すること、いいところを探してしっかり褒めてあげること、どんな小さなことでも一市民としてスポットライトを当て合うようなことができれば、理想のまちに一步近づけるのではないかなという思いで、このようにまとめさせていただきました。

した。以上です。

委員

続きまして、「めざすまちの姿②」の観光・働く・農業系の報告をさせていただきます。

私たちの「めざすまちの姿」は、「“にぎわい”を創り続けるまち」です。まず市民がまちを知り、自ら発信することで、まちの情報が行き渡り、市内での買い物や飲食、イベント、西谷を訪れる人も増え、“にぎわい”を創り続けているまちというのが、私たちのめざす姿だと思いました。

まず、宝塚のいいところ、残念なところとして出たのは、いいところは、もちろん宝塚歌劇があるので知名度が高いというところですが、残念なところとしては、魅力が知られていない、観光資源を生かしていないことなどが出ました。

私たちがどのようにすれば「めざすまちの姿」が実現したことを確認できるかということで3つ挙げました。市内で買い物・飲食をもっと楽しんでいる。これは、各店の売上げが増加したり、商業施設の空き床がゼロになったり、そういったところで確認できるのではないかと考えました。西谷に行きたいと思う人が歌劇を見に行きたいと思う人と同じぐらい増えている。こうしたことが実現すれば、農業生産は毎年アップし、移住・定住者も増えるのではないかと考えました。市民も市外の人、まち（市街地・西谷地域）の情報をよく知り、利用している。主要イベントをはじめ、イベントの開催数などが増えると、こうしたことが実現するのではないかと考えました。

では、実際に私（私達）にどんなことができるかというところですが、宝塚について自ら知り、利用し、体験し、発信するというサイクルをつくる。そのサイクルに、どこからでもいいので市民が関わることで、“にぎわい”を創り続けるまちに向かって私たち市民ができることではないかと考えました。

委員

それでは、私の方から次の6ページ、自然・環境系についてご報告を差し上げます。

このグループは自然・環境系ということで、自然が守られ、活用されて、美しい自然の中で恵みある暮らしができるまちをテーマにしました。

宝塚のよいところ、残念なところでは、六甲山、武庫川、西谷など、都会でありながら自然が豊かであるということだとか、生物多様性が豊かだとか、いいところがいっぱいある。けれども、十分それを生かしきっていないのではないかと、あるいはいろんな資源についての情報共有が市民同士でも十分ではないのではないかとこのことを踏まえまして、まちをつくっていく。

「めざすまちの姿」が実現したことを確認する方法としては、美しい自然の中で恵みある暮らしができているというポイントと、自然が守られ、活用されている。この辺が確認できるポイントではないかと思えます。具体的な

内容については、省略をさせていただきます。

めざすまちの姿の実現に向かって私（私達）ができることに記載されているごみ拾いをする事でまちをきれいにするというのは、単にごみ拾いをしようというだけではなくて、要するに行政に何事も依頼してやっていただくという姿勢ではなく、市民が自分たちでできることは、まず自分です。それでできないことは、行政と一緒にやる、あるいは行政にさせていただくという姿勢が大事だということで、その出発点としては、自分の家の前のごみを拾うことから始めてはどうかという意味です。

それから企業とか若い世代、いろんな人がまちづくりに参加する。あるいは自然の家というのも応援していく。公園アドプト制度もありますが、市民が公園の維持管理にも、公園が汚いと文句を言うのではなくて、自分たちできれいにする。ごみが落ちていたら利用者が拾う。こういうことができるのではないかと思います。

最後に、情報発信は市だけがするのではなく、住民自身が、市民自身が情報発信をする必要がある。それが私たちにできることとしてまとめました。以上です。

委員

続きまして、「めざすまちの姿④」、文化・歴史系をご説明させていただきます。7ページをご覧ください。

最初にキャッチフレーズの「文化・歴史街道 たからづか」について説明をさせていただきます。宝塚には、昔から巡礼街道、西宮街道、有馬街道があり、これらの街道によって文化・歴史が生まれてきましたので、このキャッチフレーズを採用致しました。

「めざすまちの姿」は、このキャッチフレーズの下に記載している、宝塚の文化・歴史が十分に発信され、市内のみならず市外の子どもや大人まで宝塚の文化・歴史に親しめるまちを目指すことにしました。

宝塚のよいところは、歴史・文化が感じられる観光資源が多くあるということです。具体的には、その下に書いてありますので参照してください。残念なところは、宝塚の文化・歴史を発信するための産業界・行政それぞれのつながりが明瞭でないように思われる。その具体的な例については、その下に記載しております。

「めざすまちの姿」が実現したことを確認する方法は、下線部を引いた3つの文章でまとめています。1つ目が、教育現場でこどもが歴史に親しんでいる。2つ目が、宝塚の文化・歴史が十分に発信できている。3つ目が、大人（市民・観光客）が宝塚の歴史に親しんでいる。このような3つを考えました。それぞれの評価方法については、下線部の下に記載しておりますので、見ていただければと思います。

最後に、私（私達）ができること。これが私たちのグループで一番悩んだところ。まちづくりに関して多くの議論を踏まえて、1つ目の文章、市民が主体となり、行政を中心とした縦割り組織に横串を入れるという結論に至りました。

この意味するところは、まちづくり協議会の中核を成すのが自治会です。ところが自治会の加入率が50%程度ですので、加入していない残りの50%の声をどのように反映するのかということが問題になります。

その対策の例として、1つ目は、市民がイベントに積極的に参加するとともに、参加したイベント情報を発信する。2つ目が、市民が手作りで文化・歴史に特化したイベントを企画・運営する。

これを実行することによりまして、市民同士が出会い、つながりができ、そのつながりを軸にグループを結成しまして、各市町のグループと連携して大きなうねりを起こして、既存の縦割り組織に提案をするとともに、まちづくりの進捗をチェックすることによって、縦と横が一体となって、よりよいまちをつくることにつながると考えました。以上で説明を終わります。ありがとうございました。

委員

続きまして、「めざすまちの姿⑤」の防災・安全・住環境・交通系を説明させていただきます。

キャッチフレーズですが、「若返る安全・快適 Let's 生き活きたからづか」。この意味するところは、安全で、快適で、心豊かに子どもを産み育てやすく、人もまちも若返って活力を維持できるまちを目指すということでもあります。

宝塚のよいところですが、鉄道、あるいは道路網ですが、広域のネットワークがありますから、もし災害に遭った場合についてはカバーできる状態になります。地形としては自然環境に恵まれております。海からも遠いために、津波が発生時の防災面では有利である。また、治安がよい。それから災害時におきましては、津波があった場合は、当然、西宮、あるいは阪神地区の方を受け入れる体制ができている。残念なところですが、市内の道路につきましては、歩行者および車の通行におきましては優しくないということと、複数の避難路は山手住宅地、あるいは都市部におきましては確立されていない。それから若い世代が安心して子どもを産んで、家族生活を立てにくいことと、商業が先細りしているということでもあります。

2つ目の「めざすまちの姿」が実現したことを確認する方法ですが、人口の構成が若返って、同時にまちの活力が維持されていること。細かな点については、そこに書いていますので読んでください。それから住環境が向上するということです。まちづくりルールというものがありますが、この数が増えていくことによって、市民が住環境を向上させようという気持ちに持って

いく。それから安全な生活ができているということ、いざというときでも安心できる体制が整っているということです。

私（私達）ができることですが、やはり若い世代から政治に積極的に参加する。それから一人ひとりが防災意識をちゃんと持つということ。市民がまちに根付いて経済・社会・教育に貢献し、生活や子育てを助けることができる。地域の防災の取組に参加する。高齢者は、自分の持つ知識とか経験というものを地域の中に生かしていく。コミュニティバスを利用するということで、交通弱者に対してもサポートをしていく。最後ですが、地域の防災計画を策定する。以上です。

委員

最後のところですが、健康・福祉系のグループのメンバーが審議会の委員になっておりませんので、私の方から代わってご報告を申し上げます。

この健康・福祉系では、「つながりの中で『すこやか』があふれるまち」ということで、つながりが多様になり生きがいがある暮らしができ、健やかに暮らせているまちをめざします。

宝塚のよいところというのは、書いてございますように、市民活動が活発で、元気なシニアが多い、スポーツが盛んである、市民主体のサロンが活発だということがあるけれども、残念なところとしては、イベントがなかなか市民に知られていない、世代間交流が少ないなどがあります。

「めざすまちの姿」が実現したことを確認する方法としては、健やかに暮らせる市民がたくさんいる。健やかに暮らせる市民が増えたというか、いるということですね。健康寿命が延びるとか、多世代の居場所が増える。食育も子どもだけではなく、多世代の食育というものが行われている。スポーツイベントがある。つながりが多様になり生きがいがある暮らしができているというのが2番目ですが、高齢者、障碍（がい）者等の就職率が上がったということですか、大学食堂や市役所食堂の市民利用が増える。これは、他市に在住されている方ですが、甲子園大学の学生さんがワークショップのメンバーであって、甲子園大学は山の上の方にありますが、そこを一緒に市民も利用してはどうかと一緒に話をした中でこういう話も出ました。栄養についての、そういうセクションもあるので、食堂では栄養価等も考えたメニューも出ますよということで、一緒にやったらどうかということをご提案されました。

私（私達）ができることは、多世代間でいろんなことをやるということ、自分たちで実行委員会をつくってイベントを計画する。あるいはいろんな情報があるのだけど、それが共有されていないというところは、市民が自分たちで情報のプラットフォームをつくって、アプローチすれば、市の情報も分かるけど、ここにアプローチしても分かる。それを市民でつくってはどうか

という話が出ました。最後に大学食堂ということで、さっき言った甲子園大学の人と話しながら、健康についての学びの場として大学も提供してもらって、市民も一緒にそこを利用させてもらいながら、大学と市民が一体となって、こういうことをやろうということが結論になりました。以上です。

会長 どうもありがとうございました。うまく連携してご報告いただきました。

市長に先日、先ほど報告いただいた提言書を提出いただいたということですけれども、審議会としても、これをきちんと受け止めさせていただいて、基本構想へまとめていければというふうに思っておりますので、基本構想の議論の中でも使っていただければと考えております。いまご質問、ご意見をお出しただけの方がおられれば承りたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員 若い人が、仮に宝塚に住んでいる、仮にいまの勤め先に勤めている、仮にいまの仕事をしているなど、何年か後には変わっているだろう、宝塚に一生おるとは思っていないところに問題があるように思います。提言書をまとめられた方は、そういうところは、どういうふうにお考えなんでしょうか。

会長 いかがでしょうか。

委員 ワークショップをやっていて、班のいろんな方とお話をしている感じでは、やはり皆さん、どうしたら住み続けたいと思えるかということ念頭に置いて考えていたように思います。いまの時点でも宝塚のことが好きで、考えたい、住み続けたいと思っているからこそ、こういうワークショップに参加していただいたという方が多かったのではないかなと思っています。

会長 私も、ワークショップに参加させていただき、あるいは他市でも、30代、40代の方々が集まって議論をする機会に参加させてもらっていますけれども、特に女性の方は、自分たちのことだけではなくて、自分たちの子どもたちに、いかにいいまちを残せるか、つくっていきけるかという観点で、こういう議論に参加されていると思うんですね。

そういう意味では、次の世代に残したいという思いが、かなり強いのではないかと思いますので、そういう思いを大切にしながら、また私たちも、一歩でも実現に向けて議論していければいいのではないかなと思っています。よろしいでしょうか。

あと、いかがでしょうか。

委員 ワークショップに参加された市の職員がせっかく来られているんですが、何かご意見はないですか。

委員 皆さん、宝塚にお住まいなんですか。

事務局 市外も市内もおります。

会長 感想でも結構ですよ。

また、ワークショップに参加した市職員が審議会に出席しているのは、我々

の意見をきちんと受け止めていただいて、基本構想をつくるときのたたき台を一緒につくっていただくことになるからです。

皆さんは自分で手を挙げて、市民の皆さんと一緒に作り上げたいと思って有志で参加していただき、そして来ていただいています。

委員
会長
委員
会長
委員

ぜひ感想をお聞きしたい。

いかがでしょう。遠慮なさらずに。

ちょっとよろしいですか。

はい。

提言書を読ませていただいたんですが、大きな目標というのがないように思うんですね。時間をかけてやられたこともあり、小さな目標が多くて、大きな目標というので柱になるものがないように思うんです。私もいままで40年間、宝塚に住んで、いいところは十分に堪能しましたし、これからどのような大きな目標のもとまちづくりを進めていってほしいかというのがあるのですが。

私が東京に住んでいたときに夏は暑いし、夜の12時になっても都心の温度は下がらない。ところが宝塚は、六甲山に近いこともあって必ず温度は12時になったら下がる。そういうところでは、宝塚というのは非常にいいところだと。

なぜそれを言うかといいますと、そういう環境があるところに、みんな住んでいるんですね。そういうことからいきましたら、関西では、こちら辺りかないはずなんですね。この阪神間というのは非常に住みよいところだろうと思うんです。そういうことで、もっとまちの魅力が伝われば、人口は減るどころか増えていくのではないかと思います。人口を増やすためにどうするかというのが一番の眼目だろうと思います。

それで私が考えたのは、まず観光客の来数で一番多いのは、清荒神清澄寺と中山寺で約400万人、年間に集まるそうですね。そういうことで、何とか観光客のためになるような取組を、行政の面からも考えていただけないかなというところです。

もう一つだけ言わせていただいて、宝塚歌劇には、衣装部のものすごく優秀な人がいるそうです。そういう方と組んで、宝塚からファッションを起こすようなことは考えられないのだろうか。そういう点も考えていただければと思います。話が長くなりまして申し訳ありませんでした。

会長

基本構想として、どのようにするかというのは、また後ほど、後日の審議会で議論をさせていただきますので、そこで他の委員の皆さんも思いというのがあろうかと思しますので、ご披露いただければと思うのですが、今回は、「タカラボ」の提言書に関して、もうちょっとこのあたりを聞きたいとか、

このあたりはどうなっているんだというような議論をさせていただければと思います。

委員

ちょっと質問というか、提言書9ページのめざすまちの姿において、大学食堂の市民に幅広く利用を促すという提言をされていると思うんですが、私は紅葉ガ丘、甲子園大学のすぐ近くの住民なんですが、実際に甲子園大学では地域連携センターが、すでに存在しておりまして、かなり地域の方に発信されております。

甲子園大学の方はバスも走らせておりまして、そのバスに乗って食堂まで食べにきてくださいということも、すごく自治会の回覧などでも広報されておりますし、実際、その食堂でも地域連携スペースをつくっていらっしやって、すごく発信をされているので、それを、さらに幅広く市民に広げるということで提言されていると解釈させていただいてよろしいんでしょうか。

会長

よろしいですか。

委員

そういうことです。ワークショップに参加した私の感想で申し述べさせていただきたいと思いますが、6つに分けて、ある意味、各論でのめざすまちをつくりましたけど、それをつくるときには、どうしたらいいのかというのが、冒頭の「わたしの舞台は たからづか」。これが、めざすまちをつくるための視点。

これは、説明がありましたように、この提言書作成にあたって論議をする最後の方になって、ワークショップの中で、いままでの住民の組織に対しても十分に対応しきっていない、取りこぼしているところもあるのではないかと意見があった。それは例えば、ある人がまちづくり関係で起業したいといったときに、それを提案する場所がなかなか見つからない。そういう人たちを、まちづくりに協力するみんなが分かるような仕組みが、これからはまちづくりで大事になるところではないかと。

それで「わたしの舞台」という私というのは市民一人一人が、自分が活躍する場が保証されるというか、それを確保して、自分らも、活躍する場をつくる。市民が主体となって、そういうまちづくりを一人でも始めることを保証する。そういう意味で舞台はいっぱいある。その舞台をセットするのも、団体かもしれないし、個人かもしれないけど、全ての人の「わたしの舞台は たからづか」という、それがないと、めざすまちの姿は実現しませんよということですね。

だから、めざすまちの姿の最後の私（私達）ができることをまとめたのは、行政に任せきりにするのではなくて、イベントの広報も何もかも自分の責任でまちづくりを市民がまずやるべきではないかと。そこを自覚して、行政に全てやらせるのではなくて、まず行政と一緒に市民が自分の活躍する場を確

保して、市民で共有する。それが大事だということが全体を貫いているんだと思います。

甲子園大学の取組にしても、知らない人もいっぱいおられます。パートナーシップ協定みたいなものを結んでいるはずですね。それでも、さらに具体的にするには、もっと、甲子園大学でなくて他の大学も宝塚市内にあるわけで、そういう視点で、これから自分たちの活動をしよう。そういう意味に捉えていただければと私は思っています。

会長

ありがとうございます。このあたりが、基本構想を議論するときも非常に重要な観点ではないかなと思っています。まちの将来像を、どのように描いていくかということで、それぞれ、ちょっと、そのイメージが違うかなと思います。

どのような将来の姿を目指すのかというところで、どちらかという舞台とかたちで私たちの行動を実現できるような、そんなまちにしてほしいというような未来像を描いていってほしいと思いますので、これは、また基本構想を議論するときに、しっかりと議論させていただければと思います。

ちなみに、また後ほどお話ししようと思っていたんですけども、お手元にある第5次茨木市総合計画の34ページに「まちの将来像3 みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち」という言葉遣いがあるんですね。

これが、今日いただいた「わたしの舞台は たからづか」とニュアンス的には、よく似ているのかなと思ひまして、こういう将来像のつくり方もありますので、これは次の話題で、どういう言葉遣いで今回の基本構想を仕上げていくのかという議論もさせていただきたいと思っています。

委員

「タカラボ」というのは、6つのテーマが書いてあるんですが、市民の姿というテーマがないのが残念やなと思います。市民は、いまおっしゃったように舞台はあるんですけども、そこで市民がどう考えて活動するのかというところが抜けているように思うんです。

会長

私の方から、ちょっと説明させていただくと、五十数人の方が集まっていたいて、最初のお約束は、自分がいま夢として思っていること、語りたこととスタートしようという話になったんですね。

完璧を目指すと、たぶん抜けているところは他にもあると思うんですね。しかし今回は、そういう全体の完璧を目指すよりも自分の想いを、いかに提言書の中に凝縮できるかというところで書いていただきましたので、これを一つのお話としながら、基本構想では足らずの部分というのをどんどん付け加えていただいて、いい基本構想にしていければと思います。

まだ、こういうところも付け加えていけばいいなというあたりは、また基本構想を議論する中で、みんなで持ち寄っていただければと思います。

委員 私は宝塚へ昭和39年から来て五十何年おるんですけれど、その中で考えるときに、やはり自分の子ども、孫が、この地に住むとしたら、どういう行政、どういう方向性のまちづくりにしたらいいかということがポイントになってくると思います。

だから、先ほどの話で、若い方が、取りあえず仕事のために宝塚市で勤めているということであれば、やっぱり、この問題として、私たちは今回ここを目指していくかと思う。自分として、子ども、孫のために、どのような政策、どういう方向性を採ったらいいかということを思わなくては。自分たちは団塊の世代で生きてきておりますけれど、やはり、そこがポイントだろうと思う。

一つだけ、これは全然話が違うんですけれど、これに西谷のことをいろいろ書いていただいているんですけれど、昨年度の西谷の新生児は何人か、皆さんご存じでしょうか。宝塚市の地域的な、面積から言ったら、ものすごく広いんです。去年、新生児は一人ですよ。それは頭に置いてください。それ以上は言いません。

会長 そのあたりは、また基本構想とか基本計画の中で重要なテーマでございますので、われわれがどう動くかも含めて議論をさせていただければと思います。

委員 タカラボの提言書で、あまり引っ張るのもどうかと思うので、ちょっと感想を申し上げたいんですね。

私は文化芸術振興会議の会長をしまして、タカラボの提言書の中では一応、私が肌に感じてお聞きしたのが、4の文化・歴史系のお話です。

確かに、私たちの会議で議論している内容が抜けているとか、理解されていないなどということは多々見受けられるんですけれども、でも本当に、ここに暮らしている方が、そういうふうに感じていると、われわれも問題意識を持てるということが、すごく反映されているというか、そのまま如実に出ているなど、とても思いました。

そういう声を、こういうかたちでイメージできる、見える化するというのは、とても大事なことだと思しまして、今日これを拝見できたのは、とても興味深かったですし、意義深いなと思った次第です。

まだ伝えきれていないとか、発信ができていないという課題であるとか、残念なところ、明瞭でないとか、生かされていなくて、市の施策がまだしっかりしていない点については、我々も問題視しているところです。

やっぱり市としての文化・芸術についてのポリシーが、こう向かっていくべきだということが、まだしっかり浸透していないし、市としても一生懸命頑張っているんだけど、まだまだだなというところが、まさに、この市

民の意見にも反映されているなどということを実感致しました。

確かに、提言書に記載されている柱がずれてしまったりというのもあるかもしれない、ぶれる可能性もありますけれども、ただ、これをしっかりと受け止めて、われわれがここで議論をするという、その素材としては、とても大事なものだと思います。これから頑張ろうと思います。

会長
委員

ありがとうございます。はい、どうぞ。

このワークショップは、宝塚のデータは全然用いないという前提で論議しております。だから、高齢化率がいくらだとか、子どもがどれだけ減ったかとか、市の財政状況はどうかというのは全く前提条件にしません。

だから、さっき委員にもまとめていただいたように、五十何人が市民として自分の身の回りで、目に見えることの中で、こういうまちになってほしいなという思いを持ち寄ってまとめたものですから、まとめた50人は、みんな自覚していますけど、これは市民全体を代表した声ではないでしょうと。50人の気持ちです。

市民の、そういうバックグラウンドを考えない中で、私たちはこれが欲しいという市民の本音ですから、これは完璧なものではまったくないし、あるいは、ずれていることもあります。

ワークショップですから、金をかけて行ってほしい施策が書いてある可能性もありますが、それは、そうではないかという論議はしている状況でもないし、ワークショップは、そういうことをしないという前提でやっていますから、これは市民の52人が、抜けているところもあるかもしれないけど素直な意見であると受け止めていただいてほしい。

これは、委員がおっしゃっていただいたように総合計画の中に盛り込むときには、提言書はそうふうにつくられたということで認識していただき、総合計画ではバックグラウンドをきちんと、これから説明されるものを取り入れながら、これに肉付けしたり、整理をして、違うものはカットする。その作業を行うことは分かっている、そういうふうに合わせていますので、それをご理解いただきたいと思います。

会長
委員

ありがとうございます。はい、どうぞ。

2点あります。まず4ページの宝塚の良いところと残念なところで、子育て支援制度が充実しているところが、良いところとして挙げられて、残念なところが子育て関連の情報発信が不足しているとありますが、この情報発信が不足していることについて、どのように取り組めばいいというふうにワークショップの中で考えられたのか、議論されたのかということ。また、私（私達）ができることとして、こどもにも分かるような情報発信をするという、ここに書かれている情報発信と、残念なところの情報発信が同じものである

とは、ちょっと思えないんですけども、こういったところは、どのように議論されたのかなと思います。

6ページのめざすまちの姿のところ、自然が守られ活用（遊びなど）されているところ、2つ目にボランティアが増加するとあるんですが、ボランティア元年と言われた阪神・淡路大震災のころのボランティアと、いまのボランティアさんのかたちというのは大きく変わっていると思っています。

これは宝塚のボランティア活動センターの登録ボランティアの在り方、活動の在り方などを間近で見ましても、阪神・淡路大震災のころのボランティアのかたちとは明らかに違っているので、このどのようなボランティアという捉え方を想定されて、ここに載せられているのかなと思って、これを見て思いました。

委員

子育て支援制度が充実しているという部分に関しては、個人の見解だったりというのも入っています。ただし、めざすまちの姿のところにも書いてある「トライやる・ウィーク」だったり「ミニたからづか」といった取組などもいいところとして支援制度が充実しているというふうにも書いています。

子育て関連の情報発信が不足しているということに関しては、他の班でも、イベントが市民に知られていないとか、そのような情報の思いを取れないというようなところが残念なところかなという意見が多かったです。

というのは、市役所のホームページが分かりにくいとか、そういうことが、もう少し、子育てに関してだけではなくても、この班では一応、自分がどういう支援が欲しいかというときに、どうやって支援を得ればいいのか、初めての子育てだったら何を調べたらいいのか分からない。そういうことが市のホームページからでも、もう少し分かりやすければいいのになという意見だったと思います。

子どもにも分かるような情報発信をするというのは、子どもも、まちづくりにもっと参加したらいいんじゃないかというところで、子どもにも、もっと市のことを知ってほしいということから、ホームページだけではないんですけども、大人向けの情報になってしまうようなところを、もう少し、子ども向けのものであればと思ったためです。

イベントのことよりも、やはり制度について、もう少しまちに関心を持てるような情報というのが、子どもでも分かるような発信の仕方だったらいいんじゃないかなというようなことだったと思います。

委員

委員さんのご質問ですけど、あまり深く制度的なものは考えていません。ここで論議したのは、例えば、私は「ひょうご森のインストラクター」の資格を持っています。地元の幼稚園の自然教育、堅く言うと自然教育ですけど、お山の遊びについて、ボランティアでやっています。

このグループには、他に櫻守の会の人もいて、そういう活動をしている人もいながら論議をしていく中で、自然の家があるよねと、あそこのボランティアや、あるいは公園の管理が挙げられた。私どもボランティアで公園の草刈りとか剪定とかを一生懸命、何回もやっていますけど、そういう、みんなやっている自然に関わるボランティアが、もっと増えたらいいよねという程度のまとまり方です。

だから、制度的に、それをどう確保するかという論議では、ワークショップのテーマではないので、そういうことはやっていません。

会長 このあたりも実は非常に重要な投げ掛けですので、また審議会の方で受け止めさせていただいて、議論させていただければと思います。

委員 今回、こういう試みというか、初めてこういった取組があったことも、すごく意義深かったと思うんです。ですから、このやり方についての検証というか、参加された方が実際にやってみて、ここを、もうちょっとこうしたらいいというようなこともおありだったと思うし、市で関わられた方も、いろんなご意見をお持ちだと思います。それをぜひ検証して、次にまた、こういうことをやる時に、いいかたちになるように、アンケートか何かを採ったら、すごくいいのではないかと思います。

事務局 ワークショップ自体は全10回で、あと1回あるんですけども、10回の終了後に、皆さまにアンケートを取らせていただいて、また次に向けて検証していきたいと考えております。

会長 私からも事務局の方に、タカラボに参加された皆さんを総合計画のために呼ぶだけではなくて、もうすでに、この中から子育て支援を自分たちでやってみたいとか、いろいろな動きが出ていますよね。そういうところを、それぞれの部署の方が受け止めていただいて、まず協働のパートナーとして動けるようなかたちで、この「タカラボ」のメンバーさんとの協働をずっと続けていただければと思っております。そこも継続性という意味ではとても重要なかなと思います。

それから、委員からご指摘いただいた話と、ちょっと別の言い方をさせていただければ、これは52名の集団インタビューという側面があると思うんです。52名は、こう思っていますという意見を聞かせていただきました。

次の話題としているアンケートも採りましたけれども、アンケートというのは、あくまでも個人意見なんですね。しかしながら、ここのメンバーさんは少なくとも9回、みんなで議論をして、自分の意見ではなくてグループの意見としてまとめていただいていますので、そこの思いというのが、やはり大きいだろうなと思いますので、単なる個人意見ではなくてグループ意見としてまとめた意見を、われわれがどう受け止めていくかという観点で、次回

以降の審議会でも取り上げていければと思っております。

もうそろそろ、いい時間なんですけど、タカラボに参加された職員の方、一言あれば聞かせていただきたいと思いますがいかがでしょう。

市職員 どういうかたちで始まるのか、私どもも想像しない中で始まったのですが、実際に始まってみると、皆さん、こういうことをしたいという思いがある方やすでに活動されている方が集まっておられており、話し合った内容を今後どのように、政策の中に生かしていくかという議論になりました。

なので、今後、総合計画でも、どういう施策によって動きやすいものにしていくか、どう連携させていくかということを取り入れていく視点になっています。

市職員 すごく楽しかったなと思っていて、勉強になったというよりも、たくさん声を聞けたことがうれしかったとか、そういった気持ちになりました。

市職員 私も、市民の方と一緒に仕事をさせていただいたことは何回かあるんですけど、先ほど話がありました大学生の方とか、本当に初めてお会いする方でも、こうやって市のことを思って一生懸命しゃべっていただいて、こうしたら市がよくなるんじゃないかとか、たくさんご意見をいただいて、私も刺激になったと思っています。そういう市民の方の意見があったということをお忘れずに、今後の仕事に生かしたいと思っています。ありがとうございました。

市職員 今回、タカラボに参加した私たちは、宝塚市に住んでいる者も、そうでない者もおります。私たちは宝塚市役所で日々行政の職員として働いていて、ちょっとそのワークショップの中では、他の参加されている方とまったく同じ立場ではなかったとは思っているんですけども、宝塚市の今後のことを考える上で、同じ土俵で議論ができたということですか、直接、市民の皆さんの声が聞けたことは本当に大きな学びになりました。

総合計画が10年間、今後、長く続く計画ですけれども、それがずっと続いていって、きちんと達成できているかどうかを見届けて、推進していく立場になる年代の人間だと思っていますので、そういった意味で、ワークショップに参加できたことは、本当にすごく勉強になったと思っております。

会長 ありがとうございます。あとはよろしいでしょうか。それでは、この提言書の内容につきましては今後の審議会の中でも活かしていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

議題2 市民アンケート調査報告書について

議題3 基礎調査報告書について

- 事務局 (資料に沿って説明)
- 会長 さまざまなご意見があろうかと思えますけれども、主に部会に分かれて、それぞれの分野ごとの議論のときに、この市民アンケート調査、あるいは基礎調査報告書の結果を踏まえて議論をさせていただければと思えますので、今日のご報告いただいて共有したというレベルで留めさせていただきたいと思えます。
- 委員 質問なんですけれども、アンケートのところで調査対象3千人とありますね。1回目に説明があったとしたら恐縮なんですけど、調査Ⅰと調査Ⅱは、それぞれ別の人が調査対象でしょうか。
- 事務局 調査の対象は、まったく別の方が調査対象になっておりますので、トータルで6千人の方にご協力をお願いしています。
- 委員 分かりました。
- もう1点、基礎調査報告書の26ページ、人口推移のところ、私たちがいただいている地域カルテでは、この減少率の根拠を3通りで出してもらっています。要するに、一番楽観的な減り方と、中位な減り方と、それから一番悲観的な減り方という3通りの人口減少が提案されているんです。
- これがどういう減少率を計算したのか、その3通りが、もしあれば、それも提出してもらった方が、今後の論議としていいのではないかと。
- 事務局 この人口推計につきましては、下に注釈がございますけれども、国の研究機関であります国立社会保障・人口問題研究所が公表しております推計値と、それから内閣府が示しております人口推計値を組み合わせでつくったグラフになっております。
- 考え方としては、国の研究機関が示している数値については、いわゆる中位推計ということで、よくも見過ぎていないし、悪くも見過ぎていない、ちょうど真ん中ぐらいの数値ということで試算された数字になります。
- 会長 飯室委員がおっしゃった三つの中の、ちょうど真ん中を取ったということですね。
- 事務局 はい。
- 会長 ここは、また総合計画の中でも将来の人口を位置付けていかないといけないので、そのときに集中的に議論をさせていただきたいと思えます。
- 委員 いま説明がなかったところなんですけれども、87ページの右側の上下水道について、部会が違うので先に押さえておきたいことなんですけれども、上下水道の普及率の下水道整備率90.6%と、汚水管整備率99.8%という、これはいったい何を表すんですか。
- 会長 これは「(面積)」と書いてありますよね。下水道を引いていくときに、それぞれの、どこから集めてくるかという面積がありますね。その計画面積の

中で何%ですかという 90.6%で、汚水管の整備率は、管の延長で考えたら何%、何キロ延びていますか、何%ですかという 99.8%。こういうふうに思っただけだと思います。

委員 何で僕がこのことを問題にしているかという、西谷の村の集会とか、そんなのでいつも議論になるのは、西谷には下水道がない、合併処理浄化槽で処理をしているということなんです。単にこの資料だけを見て 99.8%という話になれば、宝塚市内は全部、上下水道が整備されているという話になるのではないかと思うんです。

会長 これは下水道整備計画に載っている区域の話になりますので、西谷は別のやり方で水をきれいにしていくということになるので、この中にはカウントしていないということです。

委員 非常に自治会とか、そういうので、僕は合併処理でいいと思うんですけど、他のおじいさん方は下水道や、下水道やと言い張るんですよ。都市ガスや、都市ガスやと言うて。だから、その辺も、ちょっと議論に乗せてもらった方が。

会長 はい。部会で議論させていただければと思います。

委員 西谷の方がおられないので議論になるかなと思って、ちょっと心配で。

会長 このあたりの議論は、またさせていただければと思います。次の話題を片付けておかないと事務局の作業ができませんので、議題4に移らせていただきたいと思います。

議題4 総合計画の構成について

会長 総合計画の構成ということですが、目次構成をどのようにするかということが決まりませんと事務局作業が進みませんので、少し、そのあたりも今日は議論させていただきたいと思っております。

なかなか、この人数で、こうしようということが難しいかと思っておりますので、今日はいろいろな意見を賜って、そして、それに基づいて事務局の方で、まず、たたき台を次回までにつくっていただくということにさせていただきたいと思っておりますので、まずは事務局の方から、いま準備していただいた資料の内容も含めて説明いただきたいと思います。よろしくをお願いします。

事務局 (資料に沿って説明)

会長 3つ、用意していただいたのは構成というよりは、まずは分量の問題ですか。

事務局 はい。今回、市民の皆さまと行政で、しっかり共有できる計画ということ

ですので、イメージ的に分かりやすくまとめられているところと、それから、茨木市、尼崎市については、同じようなかたちで市民ワークショップを開催されて、それを計画に反映されているというところで、本市と同じようなかたちで総合計画を策定されていて、参考になるのではないかとということで挙げさせていただいております。

福井市の総合計画につきましては、非常に大きな字で、分かりやすくまとめられているというところで参考になるのではないかとということで、ご提供をさせていただいたということでございます。

会長 かなり目次構成が違うので、この3つで、どれがいいですかと言われてもなかなか難しいので、ちょっと、どう議論させてもらおうかなというところですが、そういう意味では、今日はざっくりと皆さんのご意見をいただいて、それを反映しながら事務局で一度たたき台をつくっていただいて、次回に議論した方が、効率的に議論ができるのではないかと考えているんですけれども。

それについて、ちょっとこういう思いがあるよと。いま3つ見ていただいて、宝塚のいまのもの比べて、こういうところがいいな、こうなったらいいなという思い、要望などがありましたら出していただければと思います。具体的ではなくても結構です。本当にシンプルで分かりやすい方がいいみたいな意見でも結構ですので、いかがでしょうか。

委員 厚い冊子と簡単な冊子の、2つを作ってはどうですか。市民向けには、こんなに厚いのをぱっと見せても、なかなか理解できない。

会長 通常は概要版をつくりますし、また後ほど議論させていただければと思いますけれども、尼崎市は読本というかたちで読み物としてやっていますし、電子紙芝居を市民の方がつくっていただいたりしていますので、そのあたりの周知の仕方は、またいろいろ、次の段階で議論できるのではないかと思います。

あとはいかがでしょうか。

委員 これに関して、宝塚市民はどんなふうに思っているんですか。これだけ立派なものをつくっていただいて、次もまた立派なものをつくるはずなんですけれども、市民の反応はどうだったのか。茨木市とか福井市のことはいいので、まず宝塚市民が、この基本計画というものについて、どういう感じを持っているんですか。

事務局 なかなか市民の方のお声を聞く機会というのがないので、いま審議会に出席いただいている皆さんが、どう思われているのかなと。個人的には、見て、文字の量が多いなど、とても市民の方が手にとって読んでみたいなどと思ってもらえていないのではないかと考えているんですけれども。

委員 先ほどアンケートを採られていましたけど、これをやるなら、そういうのもやるべきではなかったんですか。アンケートを3千人に採られたんだったら。そのための審議会ではないんですか。

会長 最初に説明いただいたように、この基本計画は市の計画として位置付けましょうというふうに、今回は、かなり大きくシフトさせていると思うんですね。基本構想部分をみんなで共有しましょうという2段構えにしていますので、そういう目で、もう一度全体を見ていただければいいかなと思うんですけども。

確かに基本計画部分というのは、さらに専門性が高いところに入ってくるので、市民が見て、すぐに分かるということには、いままでなっていなかったのかなとは思いますが、今回は2段構えにさせていただいて、どうかたちをつくっていくかということも、また後ほど議論させていただければと思います。

委員 今回は2層構造にしたのと、それから特徴として、課題でも出ているんですけど、分かりやすくとか、表現を柔らかく、市民が読みやすいようにというのもテーマだったと思うんですね。

それを考えたら、ページ組みで言えば、尼崎市のような「はじめに」や、まちづくり構想と、まちづくり基本計画をはっきりと2つに分けた方が一番分かりやすいのかなと。

問題の1つは、地域ごとのまちづくり計画も入ってきますから、住民の計画をどう入れるかという、その方がボリュームが多いから、そちらの課題があると思います。

会長 お約束の時間が回っているのですが、少しだけ延ばさせていただいてよろしいですか。あと、ご要望がございましたら。

委員 僕も尼崎市が非常にいいのではないかと。ページをめくったときに「ひと咲き まち咲き あまがさき」、非常にこれは分かりやすいし、この1つの内容が、非常に興味を持ってもらえるのではないかと。あまり堅苦しくいくと読まない、見ないということで、こういうものが1枚あるだけで全然、次を讀んでいくという意味では、こういう演出があってもいいのではないかと。あくまで個人的な意見ですが、そんなふうに思います。

会長 ちょっと補足させていただくと、私も一緒につくらせてもらいましたけれども、この「ひと咲き まち咲き あまがさき」というのは市民公募で募集したんですね。

これが、すごく面白いやり方をしたのは、本をつくらずに、こういう簡単な冊子で1年間ほど置いておきました。それを読んでいただいて、これを表すキャッチフレーズは何でしょうということを市民公募させていただいて、

出てきたのが「ひと咲き まち咲き あまがさき」なんですね。だから、つくり込むのではなくて、ちょっと寝かせていた時間があって、こういうキャッチフレーズが出てきた。

もう1つ、ちょっとお話をさせていただくと、いつもは、これをめくると市長のあいさつがありますが、市長のあいさつがございません。それは、尼崎市の現市長が、私の計画ではないんだから、市長が替わっても使えるように私のあいさつは差し込みでいいというかたちで、抜いたら次の市長のあいさつが入るようなかたちにしているので、市長があいさつが出てこないで、委員がおっしゃったように、すぐにこれが出てくる。

委員 「わたしの舞台は たからづか」があるわけですから、この辺を意識していただいたら、何かちょっと分かりやすい内容っぽいものができたらいいなと思います。

委員 宝塚と尼崎市と茨木市があるんですが、尼崎市のものは尼崎市のことを書いてあって当たり前なんですが、宝塚市のものを見ると消防だけは広域ということが入っているんですね。みんなで助け合って消防、消し合おうと。何か全然、宝塚市の中で、広域という視点は、こういうものは他にはないんですか。

委員 広く、もうちょっと助け合おうという視点が、どこにもないんです。消防だけあるんですが、どんなものなんでしょうか。それは初めから違うと、宝塚市のものだということだったら、それまでなんですが、いかがなものでしょうか。

会長 いろいろ、阪神北地域とか阪神地域で広域連携をしているはずなので、そこが、ここの総合計画の中に反映できているはずなんですけれども。これは内容の話になりますので、それもまた検討させてください。

委員 私は宝塚市民ではなくて、子どもの審議会の方から出ています。ただし住んでいるのが他市なものですから、ずいぶん、総合計画だけではなく、審議会の雰囲気も違うんだなというのを今回感じております。

見やすさとか、面白さとか、キャッチーなものは確かに他市の得意分野かなと思うんです。反対に、今回のアンケートを見せていただきましても、宝塚市の市民の皆さんが本当に市のよさを感じて愛しておられているとか、それから、地域の方々の発言がとても積極的でずいぶん市によって違うんだなと感じております。ですから、他市のよさというのは参考にはなると思うんですけれども、やはり宝塚市さんは自分の市に自信を持たれたらいいと思うんです。

それと、総合計画策定作業は、その市の役所の職員の能力を高めるものだと思います。データづくりと、これをまとめるというのが、これから宝塚市

を支えていかれる職員の方々の総合的な力を育てる機会です。そこに市民の皆さんの生活実感を生かしてもらうというものであると思います。

現実には、市民はたぶん、分厚い計画はあまり読みません。けれども、その見せ方は、この次の段階だと思えます。文章が堅めであっても、より精度の高いデータに基づいた未来像をつくっていただくことがよいと思えます。

審議会では、本当に力のある市民の方が多いなと思えました。この方々が、総合計画を実現する市民側のリーダーさんのようですし、市役所のお若い方がワークショップに参加されているのも、たぶん、これを実現する有力な方々だと思えますので、その方々にとって、咀嚼しやすいかたちにしてはどうでしょうか。

概要版は違うかたちでつくられてもいいんじゃないかなと思うんですけども、かたちにあまりとらわれすぎると大事なデータ分析にエネルギーを使えなくなりますので、他市のキャッチフレーズは、駄洒落が好きな市だからやったということを知っておいてください。私は、そこが好きですけども、宝塚市さんは違う個性がすてきだと思います。

会長

ありがとうございます。事務局の方は、今日は遠慮している部分がありまして。というのは、協働のまちづくり促進委員会の中で、最初にたたき台を市がつくってくるのが協働ではないだろうという言葉がいつもいただいておりますので、今回は目次も一緒につくらせていただければということで、ちょっとたたき台を準備するのを、事務局がためらっていた部分がございます。先ほど委員がおっしゃったように、堂々とたたきをつくってくださいというのであれば、それを受けて、また次回までに準備をしていただければと思います。

あと、何かご要望等がございますか。

委員

基本目標が前期は6つですよ。考えていただきたいのは、まちづくり基本条例の基本理念は4つです。基本条例とリンクさせることを考えて、基本目標を4つにして、細かいところは、そこに振り分けていくというように考えていただいたら。基本条例の、まちづくりの基本理念4つが、ないがしろになっているような気がするので、ちょっと、そこも考えてもらえたら。

会長

ありがとうございます。他は、いかがでしょうか。

では、いままでいただいたご意見も参考にしながら、事務局としてたたき台を、先ほど委員がおっしゃっていただいたように、自信を持って宝塚らしい構成案を出していただいて、また次回、議論ができたらと思います。よろしくをお願いします。

それでは、全体の議論を終了させていただきますけれども、何か言い忘れたことは、全体を通してありますか。

市職員 先ほど、ご意見をいただきました広域連携の件で、1つ補足させていただきたいと思います。宝塚市消防本部は指令システムの老朽化のため、指令システムの更新をしなければならないという問題がありました。

指令システムの更新には、多額の費用がかかるため、宝塚市、川西市、猪名川町の2市1町で共同運用の協議と調整を行い、2市1町が更新費用を按分し指令システムを更新して共同運用を行うことにしました。その結果、本来単独整備費用の抑制だけでなく、2市1町の応援体制がより迅速になり市民サービスの向上に繋がっています。今後も、2市1町で広域連携が計れるように継続的に協議をしています。

会長 ありがとうございます。そのあたりは、また内容に入ってから議論させていただければと思います。

総務省の方も、いま自治体戦略2040構想というのを出しています。その中で、人口が減ってくると市役所職員も減っていくので単独市町村では無理な時代が来るでしょうと。ですので、全部フルセットで市町村が持つのではなくて、お互いに、先ほどの消防のように出し合いながら、もう少し広域でやっていきませんかという話が出ています。その先駆けみたいな話も今回の総合計画の中では重要なと思いますので、また後ほど議論させていただきたいと思います。

4 その他

(1) 第3回の開催日時等について

事務局 (第3回の開催日時説明)

会長 それでは、ちょっと延びましたが以上で終了させていただきます。

(終了)